

## 1 津和野地域の概要

津和野地域は、木部地区、畑迫地区、小川地区、津和野地区と4つの地区で構成されている。地域内の人口は、4,099人で、高等学校1校、中学校1校、小学校2校がある。

山陰の小京都とも言われる津和野町、日本五大稲荷の一つ津和野太鼓稲成神社や城山、城下町の風情が残る町並みである。

## 2 事業の趣旨

昨年度「若者の地域参画」をテーマに取り組んだ中で、中・高生の気持ちに変化が見られ、「自分達が主体で活動できる場、居場所ができると嬉しい。思いやりの輪がもっと広がってほしい。」という思いが形となり、中・高生の活動グループ「つわの kinds circle」が立ち上がり、本年度本格的に始動。自分たちの存在を知ってもらい、自分たちのできることに挑戦していく中で、地域住民との関わりを広げ、大人の協働していこうという機運を醸成する。

## 3 具体的な取組内容

### (1) つわの kinds circle 取組・活動のサポート

#### ア：定例集会

部活のない学校帰りや振替休日を利用して定期的に集まる。

活動の計画やふり返りの時間を設け、次につなげる。

#### イ：「あこがれ・つながれプロジェクト

### ①ひまわりの種まき

津和野の町並みが一望できる畑「主水畑」（休耕田）で、小・中・

高生、地域住民が一堂に会しひまわりの種をまいた。



### ② X'mas オーナメントづくり・X'mas マーケット

地域おこし協力隊とコラボ

放課後子ども教室の小学生と kinds でオーナメントづくり、地域住民・保護者も参画しにぎわいの拠点となる。

また、X'mas マーケットでは出店や店番等を行い直接地域住民と関わる。

### ③県立大学「昔のあそびイベント」

県立大学生の企画で kinds が運営のお手伝い。大学生との関わりを持ち、様々な取組に視野が広がる。

### ④緊急企画「ケイドロ」イベント

地域おこし協力隊の想いと kinds の想いが一致し緊急企画でイベントを開催。

周知方法は口コミのみ。小・中・高生、地域住民併せて参加者約30名。足元が悪い中でどろんこになっても笑いのたえない時間を共有することができた。



ウ：地域イベントに出店

①まるごとつわのマルシェで出店

出産者が直売するイベントへ参加、出店。年齢層も幅広く、多様な人たちが集まり、直接お客様との関わりを持つことができた。

また kinds を知ってもらうチャンスでもあり、継続して地域に出て活動できる場である。

②笹山芋煮会で出店

中学生から出店リクエスト。保護者の協力を得て出店。お店の準備、飾りつけ、POP づくり、接客、全て中学生主体の行動、取組。Kinds 紹介の手作り POP もできた。

エ：Tシャツデザイン募集・デザイン総選挙

活動用Tシャツのデザインを中・高生に依頼。応募総数6点。その中からデザインを決める「デザイン総選挙」の開催。開催場所は、中学校の1室を借りた。参加者数1・2年生の8割、kinds に興味関心を持つきっかけとなる。

オ：他団体との交流

①豊川視察交流会

とよかわっしょいへ視察交流へ行き、対話とスポーツを通し他団体の雰囲気を感じ持ち帰る。

②大田視察交流会

大田市教育フォーラムに参加。

「いっしょに話したい」と積極的にフォーラムへ参加。午後の交流の場では、手作りランチミーティングを楽しむ。大田J.Oいんつ♪のメンバーに kinds の活動を紹介し、お互いに情報交換を行った。

島根県内に自分たちと同じような想いを持つグループがあることを知り、お互いに市町をよくし、つなが

りを大切にしたいという思いを持ち、沢山のことを感じ、学べた場となる。

4 評価と成果

本格的に始動した中で、多方面で地域住民との関わりを持つことができたこと、保・小・中・高生、地域住民が一堂に会す機会が増えたこと。

他団体との交流で感じ学んだ事を地域に持ち帰って実行しようとする気持ち、やってみたいが形となり叶うことを自らが学んだ取り組みであった。

また、その子ども達の活動の後押しをする地域の大人の姿も見えはじめた。何よりも子ども達が活動した事に対し関わった大人の人から評価をいただけたことが子ども達の励みとなった。様々な活動を通し、自主性が高まり主体性に変わってきていることが伝わってきた。



5 今後の課題と見通し

現在、中心となっている中・高生が最終学年となることから、次へ繋げるための作戦を立てる。

また kinds Jr. の育成に取り組みながら保護者をはじめ地域の大人サポーターの発掘をする。やってみたい、楽しいことをしたい、地域を盛り上げたい！そういう想いを持つ“人と人のつながり”を大切に、津和野町にたくさん笑顔があふれるように新しい風をどんどんふかせていく。

(文責：公民館主事 中村和恵)